

ニューノーマル時代のオンライン展示会

◆相次ぐ大型展示会中止でオンライン活用の動き

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年内に開催予定だった展示会やイベントは軒並み中止または延期となっている。国内最大の展示場である東京ビッグサイトは、例年約300の展示会が開かれるが、20年3～6月は緊急事態宣言もありゼロだった。そうした状況のなか、リアルな展示会に代わって、オンライン上で展示会を開催する動きが高まっている。

約20年間、千葉・幕張メッセを会場としてきたCEATEC（シーテック）も、20年6月、オンラインでの開催を決定し、10月20日～23日の開催概要を発表した。「ニューノーマル社会と共に歩むCEATEC」をスローガンに掲げ、展示エリアでは、Web上での来場者がリアルタイムで出展者とコミュニケーションできる。

オンライン展示会に変更した国内外の大型展示会事例	主催者等
介護業界最大級の商談型展示会「CareTEX」を中止し、介護業界初のオンライン展示会「CareTEX365オンライン」を20年7月14日より開催	ブティックス（日本）
家電やITなどの総合展示会「CEATEC」は、初のオンライン展示会を20年10月20日～23日に開催。	CEATEC実施協議会（日本）
最先端の産業技術や製品が集まる世界最大級の産業見本市「ハノーバーメッセ2020」を中止し、20年7月14日～15日に初のオンラインイベント「ハノーバーメッセDigital Days」を開催。	ドイツメッセ（独）
Salesforceは、毎年恒例の世界最大規模のソフトウェアカンファレンス「Dreamforce」の開催を中止し、オンラインへ変更すると決定。	Salesforce（米国）

（各種資料をもとにARCが作成）

◆リアルとオンラインによるハイブリッド型展示会

オンライン展示会の最大のメリットはコストを抑えられることだ。主催者にとっては展示会場のレンタル費が不要に、出展者側にとってはブース設営や資料の印刷費、来場者の対応人件費などを削減できる。加えて、出展者にとっては、場所・期日・時間の制約がなくなることで集客の幅を広げることができる。主催者は、来場者の情報、行動をすべてWeb上で把握でき、分析することも可能になる。

一方、デメリットとしては、来場者に商品を実際に使ってみるといった、物理的な体験を提供することはできない、などがある。CEATEC実施協議会は、リアルとオンラインによるハイブリッド型展示会に進化させていく方針を示している。ニューノーマル時代の新しい展示会の可能性に期待したい。

【秋元真理子】